

### \* 更地になったPZT (写真天頂筒) の観測建屋跡地

アーカイブ室新聞第238号(2009年10月15日)に「PZT (写真天頂筒) 移設の大工事」、第239号(2009年10月20日)に「移設、復元なったPZT (写真天頂筒)、そして展示」という記事を書いた。そして第318号(2010年4月15日)「屋根板が吹っ飛んだ写真天頂筒 (PZT) の建屋」という記事を書いた。2009年10月にPZT (写真天頂筒) を天文機器資料館に移設した段階で、このPZT (写真天頂筒) の建屋は取り壊しが決まっていた。そしてついに取り壊され更地になった。この取り壊し工事は騒音が出るため、土曜、日曜に行われたため、そしてすばる解析研究棟、25m重力波望遠鏡実験施設の影になっているので、この工事を知る人は少ない。写真1が2011年の春一番の強風で残っていた屋根板がはがれたPZT建屋である。写真2が昨年4月段階の状態であった。



写真1



写真2 2010年4月の状態

PZT (写真天頂筒) は昭和27年(1952年)頃から昭和63年(1988年)頃まで約25年間日本の時刻を決定していた望遠鏡である。その観測の現場で建屋を含めて保存することも考えたが、見学エリアから外れているし、建屋の痛みもひどい状態だったので、天文機器資料館に移設、展示を行った。このPZT (写真天頂筒) にその役目を譲るまで日本の時刻を決めていた連合子午儀の1号機の基礎はモニュメントとして、すばる解析研究棟の東に残されている。連合子午儀室が建設されたのは大正10年(1921年)であるから、その働いた年月に大差はない。連合子午儀1号機の架台は立派な花崗岩であるが、PZT (写真天頂筒) はコンクリートの剥き出しで見栄えもしない(写真3)こともあり、モニュメントとして残そうと気にはならなかった。写真4が取り壊し中の写真である。筆者はこの望遠鏡で観測したことはないので、この取り壊しに対してさほど感傷的な気持ちにはならなかったが、この望遠鏡の開発に心血を注いだ虎尾正久先生が御存命ならば涙を流されたかもしれないと思うと申し訳ない気がする。



写真3 建屋を取り払われたPZTの基礎



写真4 取り壊し中のPZT（写真天頂筒）建屋

そして写真5が完全に更地になった状態である。長い歴史を持つ東京天文台（国立天文台になった今でも）では新しい研究に進むために観測を終えた研究施設が残されていく。歴史の流れである時点ではそれらは取り壊されていくが、その中には天文学の歴史を刻ん

だ貴重な観測装置が残されていることが多い。今回のPZT（写真天頂筒）の場合には、建屋はなくなったが運よく観測装置は破棄されることもなく、外に流出することもなく、また原形をとどめた状態で天文機器資料館に保存されたことは幸運であった。



写真5 更地になったPZT（写真天頂筒）建屋跡

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)